

( 仮称 ) こども未来館  
基本構想

平成 29 年 11 月

厚木市

## はじめに

- 1 基本構想の策定に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
  - (1) 基本構想策定の背景と目的
  - (2) 本基本構想の位置付けと上位計画との関係
  - (3) 本構想の策定手順と章構成

## 第1章 前提条件の整理

- 1 社会及び立地環境の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
  - (1) 子どもや科学をめぐる社会環境
  - (2) 厚木市中心市街地の現状
  - (3) 厚木市を含む神奈川県・県央エリアの現状
- 2 厚木市子ども科学館の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
  - (1) 設置目的・概要等
  - (2) 管理運営体制
  - (3) 利用状況
  - (4) 主な展示・事業
  - (5) 子ども科学館の課題
- 3 こども未来館整備における3つの視点・・・・・・・・・・ 18

## 第2章 事業活動の方向性

- 1 基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
  - (1) 基本理念（コンセプト）
  - (2) ターゲットと利用シーン
  - (3) 周辺施設との機能整理：コミュニティプレイスとしての役割
- 2 展開の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
  - (1) こども未来館整備におけるポイントと展開の方針
  - (2) 厚木を身近に感じられるためのコンテンツ・テーマ設定
  - (3) 施設イメージ

## 第3章 施設・活動展開のイメージ

- 1 **ゾーニング及び動線・諸室の活動の検討**・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
  - (1) あつぎフューチャーワンダーパークを構成する3つの要素
  - (2) あつぎフューチャーワンダーパークのゾーン構成
  - (3) 各ゾーンの活動及び空間イメージ
  - (4) 施設構成及び動線の考え方
  - (5) 既存団体の活動の発展
  - (6) 学習支援・交流事業の考え方
  - (7) 諸室の想定(案)
- 2 **管理運営に関する検討**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
  - (1) 管理運営方針
  - (2) 開館時間・休館日
  - (3) 使用料(入館料など)
  - (4) 管理運営体制(組織・人員)
  - (5) 管理運営方式

## 参考資料 類似施設の状況

- 1 **類似施設の特徴と傾向**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
    - (1) 類似施設の特徴
    - (2) 類似施設の傾向
  - 2 **国内・神奈川県内の科学館及び類似施設の動向**・・・・・・・・・・ 52
- 用語解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58



はじめに

---

# 1 基本構想の策定に当たって

## (1) 基本構想策定の背景と目的

厚木市では、子どもが元気で笑顔にあふれ、夢を育み、自ら学びともに成長するまちづくりを進めています。近年、子どもを取り巻く社会環境が変化、多様化しており、更なる安全な子どもの居場所づくりや青少年の健全な育成を図るための取組が求められています。

そのような中、厚木市子ども科学館（以下、「子ども科学館」という。）は、子どもたちの創造性豊かな育成に寄与する施設として多くの市民に親しまれていますが、平成25年4月に策定された「中心市街地再配置計画」の中で再配置の対象とする18の公共施設・機能の一つに位置付けられました。さらに、平成26年12月に策定された「中町第2-2地区周辺整備事業の整備方針」では、核となる6つの整備方針の一つに位置付けられ、平成27年3月に策定された「厚木市公共施設最適化基本計画」では、中町第2-2地区に移転整備することが決定されました。

本基本構想（以下、「本構想」という。）は、子ども科学館を中町第2-2地区において、「（仮称）こども未来館」（以下、「こども未来館」という。）として発展させ、本市の子どもたちの未来に向けて、より充実した事業につながることを目的としています。

本構想策定に当たっては、子ども科学館の機能移転にとどまることなく、厚木らしさを念頭に、産学官<sup>1</sup>との連携についても、さがみロボット産業特区<sup>2</sup>を始めとする、本市の特徴をいかしたものとします。また、本厚木駅前という恵まれた立地環境を最大限にいかすほか、中町第2-2地区周辺整備事業に含まれる中央図書館との融合や、複合施設としての利点をいかした事業展開を行うなど、様々な活動を通じて世代を超えた、人々の交流が生まれる居場所づくりを目指します。

### 調査・検討の項目

本構想では、以下の項目について検討し、策定を行います。

- 1 こども未来館の基本理念
- 2 こども未来館での活動方針
- 3 活動方針に基づく具体的な展開イメージ・運営の検討
- 4 類似施設の最近の動向

## (2) 本構想の位置付けと上位計画との関係

本構想は、こども未来館の整備の方針やイメージを提示することで、今後の事業活動の検討における羅針盤となるものと位置付けます。

なお、本構想の作成は、「中町第2 - 2地区周辺整備事業の整備方針」でも挙げられているとおり、厚木市立中央図書館等との複合化により相互に連携していくことを前提としています。

### 上位計画との関係

本構想は、子ども科学館の活動を継承しながら、新たな機能や役割を付加し拡充することで、あつぎ元気プランにおける重点戦略 ③「未来を担う人を育てる戦略」の実現に貢献するものとして位置付けます。

#### 上位計画

「あつぎ元気プラン」第2期基本計画より  
平成27年3月

あつぎ元気プランの重点戦略を担う  
拠点としての(仮称)こども未来館

厚木市では「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市あつぎ」を将来都市像として、子どもたちが健やかに育つ環境づくりなどを中心とする、「未来を担う人を育てる戦略」を重点戦略に設定。(仮称)こども未来館はその一翼を担う施設となります。

第9次厚木市総合計画「あつぎ元気プラン」  
平成22年2月より各年度ごとに実施計画・  
基本計画を随時見直し

#### 上位計画

「あつぎこども未来プラン(第2期)」より  
平成27年3月

地域全体と連携しながら、  
子どもたちの「生きる力」を育む場

厚木市では、子どもの成長と子育ての喜びを地域社会全体で支えるまちを理念とした次世代育成の取組を推進。(仮称)こども未来館は、子どもたちが自ら学び、考え、判断し、行動する「生きる力」を身につけ、健やかに成長できる環境づくりに位置付けられます。



「中町第2 - 2地区周辺整備事業の整備方針」より 平成26年12月  
6つの整備方針

未来の図書機能・科学機能を核とした複合施設の新設

### (仮称)こども未来館基本構想 平成29年

担うべき役割

地域全体として子どもたちの未来を育んでいく拠点としてのこども未来館を整備する。

# 1 基本構想の策定に当たって

## (3) 本構想の策定手順と章構成

本構想の策定に当たっては、施設の方向性を定め、今後の検討を進めていく上での指針づくりを行います。また、開館後の持続的な管理運営に必要となる内容を検討します。

始めに、子どもたちを取り巻く社会動向や、子ども科学館の事業活動の状況など様々な「前提条件」を整理します。また、立地や周辺動向という観点から、中町第2-2地区がある本厚木駅周辺の状況や周辺自治体の動向などを確認します。その上で、こども未来館に必要となる視点を抽出します。

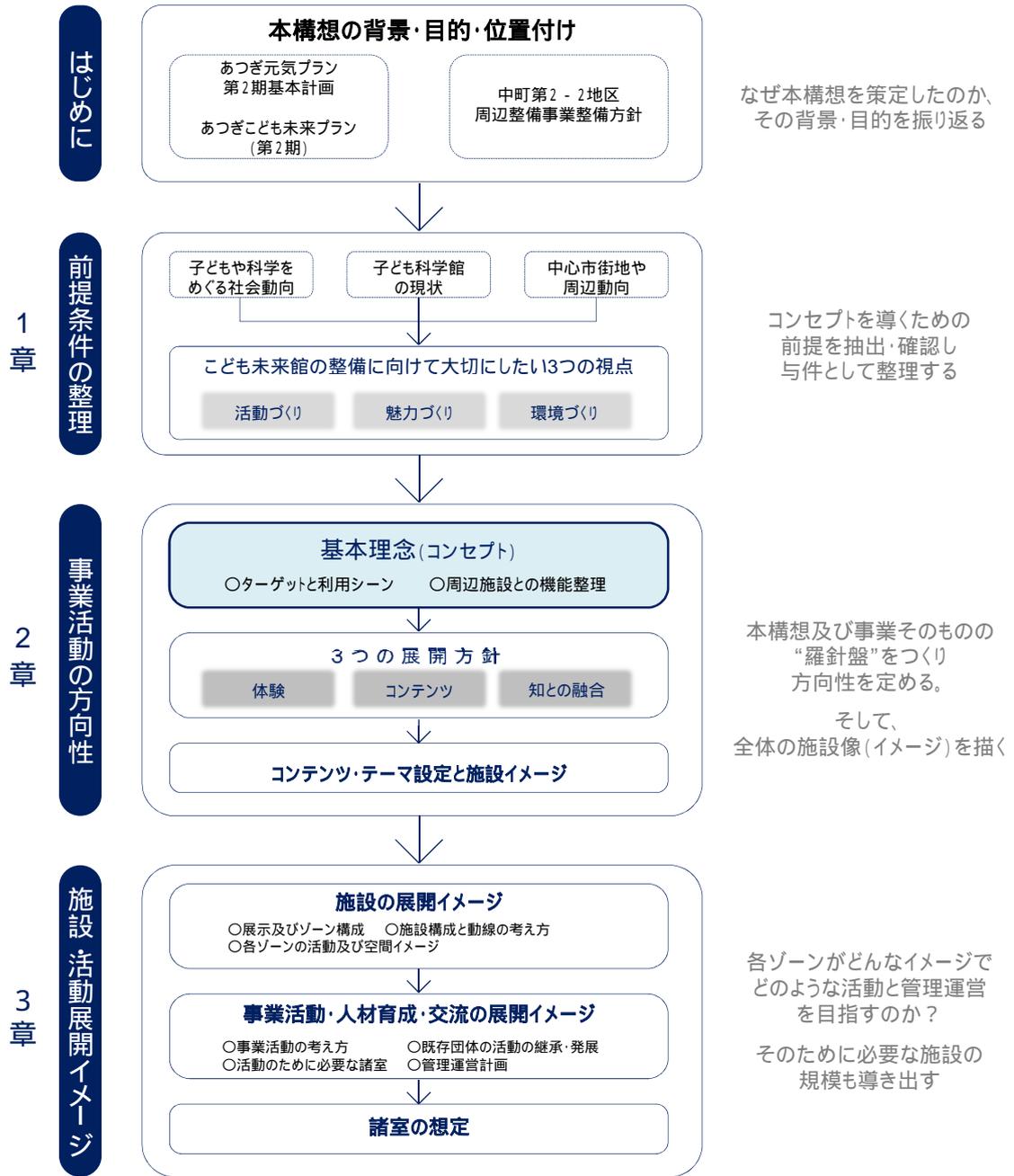
この視点を踏まえ、今後進めていくための「基本理念（コンセプト）」を策定するとともに、ターゲット（利用者層）と利用シーンの設定や、周辺施設との役割・位置付けを明確にした上で、施設イメージを想定します。

具体的な施設や事業活動のイメージについては、空間イメージや施設のゾーニング・動線や規模などを設定し、今後の施設や事業活動の計画、設計に活用していきます。

また、開館後の管理運営について人材の育成や、人員体制など、施設の事業運営を持続するために考えるべき視点を抽出し、今後の管理運営に関する具体的な検討を進める際の指針としていきます。

本構想は、このような流れを、1章「前提条件の整理」、2章「事業展開の方向性」、3章「施設・活動展開イメージ」の3章と、資料編で構成しています。

本構想の策定手順



資料編 類似事例

全国・神奈川県内の同種施設の動向



## 第 1 章 前提条件の整理

---

# 1 社会及び立地環境の現状

## (1) 子どもや科学をめぐる社会環境

### ア 激変する社会環境と一人一人の主体的な学びの重要性

少子・高齢化やグローバル化<sup>4</sup>の進展、雇用環境の変化、環境や食料・エネルギーなどの地球規模の課題の高まりなど、これからを生きる子どもたちを取り巻く社会環境は大きく変化しています。また、国際的な競争の高まりや知識基盤社会への移行に対応しながら、持続可能で活力のある社会を実現していくことが課題となっています。我が国においては、「知の量と質」が未来への鍵を握るとされており、私たち一人一人が主体的に学び、考え、未来を創造していく社会の実現が求められています。

### イ 「生きる力」を育む取組の推進

子どもたちを取り巻く社会環境の変化を踏まえ、我が国では「社会を生き抜く力の養成」「未来への飛躍を実現する人材の養成」「学びのセーフティネットの構築」「<sup>きずな</sup>絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を基本的方向性として設定した第2期教育振興基本計画が平成25年に策定されました。特に、「社会を生き抜く力」は、未来への飛躍を実現する基盤として位置付けられ、国民全体の水準を向上していくことが重要との認識から、「生きる力」を育むことを理念とする新学習指導要領の基に「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育てる取組を推進することとされました。

### ウ 理科に関する興味関心、思考力・判断力の育成に課題

新学習指導要領では、「理数教育の充実」がポイントの一つに挙げられ、「次代を担う科学技術系人材の育成や国民一人一人の科学に関する基礎的素養の向上を図るため、理数好きな子どもの裾野の拡大や子どもの才能を見いだし伸ばす施策を充実するなど科学技術・理数教育を充実するための施策を総合的に推進」することとされています。

また、子どもたちの学力の現状を、「全国学力・学習状況調査」「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)」「国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)」の結果からみると、基礎的・基本的な知識や技能の習得については一定の成果があったとされ、算数・数学、理科の全てについて国際的に上位にあるとされています。しかし、思考力・判断力・表現力等を問う設問については課題があるとされ、更に数学や理科に対する興味・関心が国際平均よりも低いことも大きな課題となっています。

**エ 日常生活とのつながりで科学を捉え、未来を創造する力を育む取組の必要性**

現在、算数・数学・理科が楽しいと思う児童・生徒の割合は国際水準より低いものの、増加しつつあるとされています。また、数学や理科が「日常生活に役立つ」「将来、自分が望む仕事につくために良い成績をとる必要がある」とする中学校生徒の割合も増加し、国際平均との差が縮まっているとされています（国際数学・理科教育動向調査（TIMSS2015）より）。

今後は、更に子どもたちの理科に対する興味・関心を高めるとともに、理科（科学）と日常生活とのつながりを実感し、自分たちの暮らしや社会の未来を一人一人が主体的に考え、創造していく力を伸ばして行く取組が求められています。

# 1 社会及び立地環境の現状

## (2) 厚木市中心市街地の現状

### 中心市街地ならではの、にぎわいと活気のある厚木市

本厚木駅周辺では、「魅力ある安全・快適な拠点性の高い交流のまち 厚木」を目標として、厚木市の中心的な商業・業務拠点の形成のための高度利用の促進と都市基盤の充実を図り、商業・業務施設と都市型住宅の共存による親密さのある中心市街地の形成を図る取組が進められています。

公共施設の適正な規模での更新・複合化や、オープンスペースの確保や歩行者ネットワークの充実により、安心・安全でにぎわいのある中心市街地を形成するとともに、「歩いて楽しいまち」の実現が図られるよう取り組んでいます。

#### 厚木市中心市街地の公共施設



- 郷土資料館
- 厚木北児童館
- 厚木北公民館
- 厚木市役所
- アミュあつぎ
  - ・ 託児所わたくも
  - ・ 子育て支援センターもみじの手
  - ・ 授乳室&おむつ替え室
  - ・ 屋内広場sola
  - ・ ルーム（活動室）
  - ・ ミュージックルーム、音楽スタジオ
  - ・ amyuスタジオ
  - ・ 若者サポートステーション
  - ・ オープンラウンジ
  - ・ キッキングスタジオ
  - ・ 和室
  - ・ アトリエ
  - ・ あつぎアートギャラリー
- 総合福祉センター
- 厚木市社会福祉協議会ボランティアセンター
- あつぎセーフティステーション 番屋
- 厚木シティプラザ
  - ・ 老人福祉センター寿荘
  - ・ 中央図書館
  - ・ 子ども科学館
- 厚木保育所
- 中町1丁目第1自転車等駐車場
- 厚木南公民館

平成29年3月現在

## (3) 厚木市を含む神奈川県・県央エリアの現状

## 新たな発想によるまちづくりが進む県央地域

厚木市は、神奈川県の中央エリアに位置し、周辺は海老名市や相模原市、大和市などが位置しています。

厚木市の周辺市では、近年、大型ショッピングモールが複数オープンし、大きな集客の場になっています。また、公共施設の民間活力の導入により、商業、文化、学習などが融合した拠点づくりも進められています。

一方、厚木市は、相模川や大山などの豊かな自然環境のほか、産業、先端技術研究開発の拠点の集積地であること、また、神奈川工科大学、松蔭大学、湘北短期大学、東京工芸大学、東京農業大学の5大学があり、本厚木駅周辺は本市の玄関口の一つであり大きなにぎわいの拠点の一つと言えます。

このような周辺市の動向も踏まえ、特に市の玄関口の一つといえる本厚木駅前において周辺市とは異なるアプローチで、“厚木市ならではの”魅力を創造していくことが求められます。

## 厚木市の現状

		厚木市
市制施行日		1955年2月1日
面積		93.84km <sup>2</sup>
世帯数		96,873世帯
人口	合計	225,415人
	男	116,404人
	女	109,011人
人口密度 (1km <sup>2</sup> あたり)		2,393.5人
老年人口割合		23.8%
主要事業所		アンリツ株式会社、ソニー株式会社、日産自動車株式会社 日立オートモティブシステムズ株式会社、株式会社リコー
10,000m <sup>2</sup> 以上の大型施設		アットアツギトレリス、イオン厚木店、コーナンアツギ下荻野店、 ダイクマテックランド厚木店、本厚木ミロード
5大学		神奈川工科大学、松蔭大学、湘北短期大学、東京工芸大学 東京農業大学

は、五十音順

平成29年2月1日現在

## 2 厚木市子ども科学館の現状

### (1) 設置目的・概要等

子ども科学館は、昭和60年に開館し、30年余りが経過しました。身の回りの自然や物の仕組みに興味を抱き、理解を深めるため、これまでに展示やワークショップ、プラネタリウムなど様々な事業を展開してきました。

その結果、様々なノウハウを蓄積していることから、青少年の豊かな感性や情緒、創造性を育むことができ、市民に親しまれています。

### 諸室の構成・規模

名称	厚木市子ども科学館 【神奈川工科大学厚木市子ども科学館（ネーミングライツによる通称名）】
所在地	厚木市中町1-1-3（厚木シティプラザ6、7F）
設立年	昭和60年（1985年）
沿革	昭和60年2月 厚木シティプラザ全面オープン（平成28年度末現在 築32年） 平成21年7月 プラネタリウムをコスモシアターにリニューアル
観覧料	プラネタリウム：大人は200円、4歳～中学生は50円 年間パスポート：大人は800円、4歳～中学生は200円 コスモシアター：プラネタリウムを使用しない場合500円/H プラネタリウムを使用する場合3000円/H サイエンスホール250：700円/H
休館日	年末年始（12月29日～1月3日）、施設点検日
開館時間	9:00～22:00（展示ホールは17:00まで）
延床面積	1,419.04㎡（共用部分を含む）
交通アクセス	小田急電鉄小田原線本厚木駅東口から徒歩3分

### 施設の概要

階数	名称	面積(㎡)	主な設備
7階	科学展示ホール	294.21	展示物・実験装置の設備
	プラネタリウム	172.02	光学式プラネタリウム・デジタル式プラネタリウム、映像・音響機器
	研修室	63.39	
	準備室	31.09	
	事務室	44.0	
6階	サイエンスホール250	267.99	貸室、サイエンスショーなど
その他・共用部分		546.34	EVホールなど
合計		1,419.04	



(2) 管理運営体制

子ども科学館は、厚木市の直営施設として、運営を行っています。

また、施設には平成21年度から、ネーミングライツを導入し、「神奈川工科大学厚木市子ども科学館」として運営を行っています。

(3) 利用状況

子ども科学館は、1日当たり14万人もの乗降客数がある本厚木駅（東口）から徒歩3分であり、交通の便が良い場所に位置しています。また、中央図書館と同じ厚木シティプラザの中にあるため、図書館と併用する利用者も見られます。

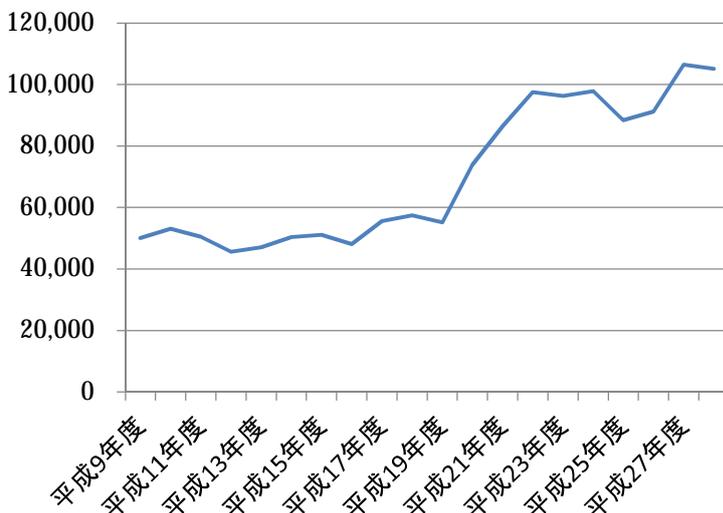
子ども科学館の過去3年間の利用状況（表1）は、展示ホールで57,000～71,000人程度、プラネタリウムで27,000～33,000人程度、講座等で5,300～6,100人程度、合計で91,000～106,000人程度で推移しています。なお、平成27年度のプラネタリウム観覧者数は、33,930人となり、日本プラネタリウム協議会「プラネタリウム基礎調査2016」の座席99席以下の小規模部門で全国第2位となっています。

また、過去20年間の利用状況（図1）は、年度ごとにばらつきはあるものの、年々増加傾向にあります。

【表1】過去3年間の利用状況

年度	展示ホール	プラネタリウム	講座等	合計(人)
26	57,823	27,875	5,454	91,152
27	66,366	33,930	6,165	106,461
28	71,450	28,283	5,374	105,107

【図1】過去20年間の利用状況



全国プラネタリウム  
観覧者数ポスター



## 2 厚木市子ども科学館の現状

### (4) 主な展示・事業

#### ア 展示ホール

科学に関する興味を促すため、展示物・実験装置等を設置している常設展示と、自作の展示物・実験装置を設置する夏休み手づくり展示を展開しており、物理や宇宙の原理などを、手作りのハンズオン 5 展示を中心に展開しています。

フロア	展示・事業の名称	内容
展示ホール	常設展示	展示物・実験装置を設置し、科学に関する興味を促す。
	夏休み手作り展示	自作の展示物・実験装置を設置し、科学に関する興味を促す。

#### イ プラネタリウム

定員90名を収容するプラネタリウムでは、一般投影、学習投影、幼児投影、特別投影の4種の投影を実施しています。通年で行われているのは一般投影で、学習投影は冬季に小学校4年生の理科授業の一環として投影し、幼児投影は夏季と秋季に七夕やお月見などにちなんだ番組を投影しています。特別投影は、解説員による生解説付きの「ライブ投影」、「銀河クルージング」及び「きらきらタイム」等で構成しています。また、ターゲットを限定した投影や、コンサートなど、特別な内容のプラネタリウム番組の投影も行っています。

フロア	展示・事業の名称		内容	
プラネタリウム	一般投影	通年	季節の星座案内とテーマ部で構成する番組を投影する。	
	学習投影	冬季	小学校4年生の理科授業の一環として投影する。	
	幼児投影	夏季・冬季	七夕やお月見の時期にちなんだ番組を投影し、情操教育の一助とする。	
	特別投影	ライブ投影		各月の星空の見どころについて生解説で投影する。
		銀河クルージング		双眼鏡でメガスターの星探しを生解説で楽しむ。
		きらきらタイム		未就学児が初めてのプラネタリウム体験を行う。
		字幕付き番組		日本語字幕付きの投影を行う。
昼寝タリウム		昼休みのビジネスパーソンにリラックスタイムを提供する。		
その他		ターゲットを限定した投影や、コンサートなど特別な内容のプラネタリウム番組を投影する。		

## ウ 講座の実施

科学関係と天文関係の2種類の講座を実施しています。科学関係では、サイエンスショー、おもしろ実験、土曜科学実験教室、ミニ工作教室、科学工作教室を行っています。また、天文関係では、天体観望会、特別天体観望会、太陽観察会、天体望遠鏡工作教室を行っています。

	展示・事業の名称	内容	
講座等	科学関係	サイエンスショー	ショー的要素の高い科学実験を公開する。
		おもしろ実験	身近な材料を活用した短時間でできる簡単な科学遊びを行う。
		土曜科学実験教室	身近な現象に対する疑問を科学的に解明し、自然の法則について理解を深める実験や工作を行う。
		ミニ工作教室	身近な材料を活用した短時間でできる簡単な工作を行う。
		科学工作教室	科学の法則を応用した工作にじっくりと取り組む。
	天文関係	天体観望会	プラネタリウムによる事前説明と併せ、大型の天体望遠鏡を用いて本物の星空を観察する。
		特別天体観望会	特別な天文現象を観察する機会を提供する。
		太陽観察会	太陽専用の望遠鏡で、通常目にするのできない太陽の姿を観察する。
天体望遠鏡工作教室		天体望遠鏡工作キットの製作から実際の天体観測の実技までを指導する。	

## エ 科学教育支援

学校や青少年育成団体などが実施する科学に関する活動などを支援するための講師派遣のほか、家庭や地域で子どもたちに科学の楽しさを伝える指導者を育成する実技研修を実施しています。

## オ 情報提供

広報あつぎを始め、ホームページの随時更新、月1回以上のメールマガジン（子ども科学館ニュース）や季節ごとの子ども科学カレンダー等の配布など、様々な媒体により情報提供を実施しています。

## カ 子ども科学館まつり

こどもの日に、子ども科学館のPRを主な目的としたイベントを実施しています。

## 2 厚木市子ども科学館の現状

### 平成28年度の主な事業実績回数と参加人数

フロア	内容	実施回数等	参加人数(人)
科学展示ホール	常設展示	359日	71,450
	夏休み手作り展示	42日(内)	11,205(内)
	<b>科学展示ホール合計</b>	<b>359回</b>	<b>71,450</b>
プラネタリウム	一般投影	823回	19,499
	学習投影	33回	2,289
	幼児投影	67回	4,376
	特別投影 ライブ投影	8回	260
	特別投影 銀河クルージング	4回	138
	特別投影 きらきらタイム	12回	915
	特別投影 字幕付き番組	27回	182
	特別投影 その他	10回	624
	<b>プラネタリウム合計</b>	<b>984回</b>	<b>28,283</b>
講座等	サイエンスショー	1回	120
	おもしろ実験	17回	814
	土曜科学実験室	4回	132
	ミニ 工作教室	19回	1,202
	科学工作教室	4回	124
	科学関係小計	45回	2,392
	天体観望会	3回	219
	特別天体観望会	1回	150
	太陽観察会	2回	50
	天体望遠鏡工作教室	1回	83
	天文関係小計	7回	502
	<b>講座等合計</b>	<b>52回</b>	<b>2,894</b>
科学教育支援	講師派遣等	52回	2,462
	大人のための科学教室	3回	18
	<b>科学教育支援合計</b>	<b>55回</b>	<b>2,480</b>
その他	子ども科学館まつり	1回	755(内)
合計			105,107

**(5) 子ども科学館の課題****ア 施設の狭あい化**

開館後30年が経過する間、人口の増加や、利用者ニーズの多様化などから、様々な講座の開催や時代に合った展示が必要となっていますが、展示ホールの面積や機材・展示物等の収納スペースの不足が顕在化している状況です。

**イ 専用駐車場が無く、団体利用の受入れが困難**

専用駐車場や障がい者用の駐車場がないため、多様な方々の利用が困難になっています。また、大型車両（団体利用時のバス）を停める駐車場もなく、学校や幼稚園などの団体利用が困難になっていることから、教育活動にも支障が出ている状況となっています。

**ウ 人材の確保**

参加体験型事業は、利用者のニーズが拡大しているが、そのニーズに対応する事業を開催するための専門スタッフやボランティア等が不足している状況となっています。今後は、科学館活動を担う人材を育成する必要があります。

**エ 近隣公共施設との連携**

子ども科学館及び中央図書館の集客性は高く、現在も複合施設となっていますが、今後、更なる事業連携の強化や、新たな魅力づくりを行うことにより、周辺地域の活性化が期待できます。

**オ 青少年が集える場所の不足**

厚木市は、人口総数に占める青少年人口の割合が28.7%（住民基本台帳人口より算出 平成29年2月1日現在）と、県内自治体の中では上位に位置しており、青少年が集える場のニーズが高くなっていることから、中心市街地において、青少年が集い一緒に学べるような機能を持った場所の提供が求められています。

### 3 こども未来館整備における3つの視点

社会環境、立地環境及び子ども科学館の現状を踏まえ、子どもたちや親子が利用できる場、さらに、子どもの未来を育む場としての役割を担うことが期待されることから、こども未来館の整備における3つの視点を挙げます。

#### 厚木市及び子ども科学館の現状

近年、展示ホール年間約6万人、プラネタリウム年間約3万人を安定的に集客し、 $m^2$ 当たり来館者数では他館を上回る実績を残しています。また、子どもたちに学校以外でも、科学に触れる楽しさを提供する場所としての役割も大きく、手作り展示物や参加体験型イベントが同館の特徴となっています。

子どもの「成長」と子育ての「喜び」を地域社会全体で「支える」まちが、厚木市の基本の方針です。厚木市には、ジュニアリーダーや子ども会などの活動のほか、厚木市独自の地域資源として、日本を代表する技術系企業・研究機関があり、複数の大学が立地されています。また、「さがみロボット産業特区」に指定されるなど、地域力に優れています。

こども未来館には、中町第2-2地区周辺整備事業の中で、厚木市の未来を担う魅力あるまちづくりに貢献することが期待されます。そのため、図書館（貸出者数年間26万人）と融合・連携した施設とすることで、気軽に集まれる公園のような魅力を持った施設を目指します。

こども未来館整備における3つの視点

視点1

厚木市子ども科学館としての  
活動実績を未来に発展させる  
“活動づくり”



視点2

厚木市の地域力<sup>6</sup>・環境資源を  
いかした独自性あふれる  
“魅力づくり”



視点3

気軽に過ごせる空間として、  
こども未来館と中央図書館を融合した  
“環境づくり”





## 第2章 事業活動の方向性

# 1 基本的な考え方

## (1) 基本理念 (コンセプト)

第1章で掲げた、こども未来館の整備における3つの視点である「活動づくり」・「魅力づくり」・「環境づくり」を踏まえ、施設が実施する事業活動の基本的な考え方として、基本理念(コンセプト)を掲げます。この基本理念は、今後の整備や開館後の事業を実施していく上で目指す方向性として位置付けます。

### 「こども未来館」の基本理念

## 子どもたちの未来へのチカラをみんなで育て、 伸ばしていく、 コミュニティプレイス<sup>7</sup>の創造

市民や団体、企業が集まり、日常的な「普段着の交流と協働」を通じて、厚木の魅力に気付き、ともに地域の未来を担う子どもたちを育てていく、未来志向のコミュニティ空間としての新たな在り方を追求していきます。

ときめき



ひらめき



厚木の未来をつくる  
コミュニティプレイス

学び・交流・発見  
体験・遊び・成長

おどろき



きらめき



## (2) ターゲットと利用シーン

## にぎわいと交流を生み出す拠点としてのターゲット設定

基本理念で掲げた「子どもたちの未来へのチカラをみんなで育て、伸ばしていくコミュニティプレイスの創造」のために、開館後に利用して欲しい層（ターゲット）として青少年の育成の観点から、小学生、中学生及び高校生を主たる対象者に設定します。また、厚木市内外の幅広い人々に利用され、にぎわいと交流を生み出すことが、こども未来館の基本理念の実現において重要となることから、市民の生活時間にマッチした施設展開により、幅広い利用と世代間交流につなげます。

## ターゲット設定で配慮すべきポイント

## ア 利用シーン

駅前という立地や、図書館との融合という特徴、そして「普段着の交流と協働」から、「日常利用」、「学習利用」及び「活動利用」の3つの利用シーンを想定します。

## イ 立地

中心市街地に立地することから、幅広い世代や多様な目的の利用者が考えられます。

日常利用	学習利用	活動利用
子育て世代と未就学児の“公園”利用	小・中学校団体の 学習利用 (教職員)	青少年関係団体 大学 企業 NPO ボランティア 他の市民団体
高校生等の放課後“居場所”利用		
一般層(シニア)の生涯学習利用		
図書館利用者の立ち寄り利用	図書館利用者の 立ち寄り利用	
ファミリーのレクリエーション利用		
若年層・一般層のレクリエーション利用		
市外からのレクリエーション利用		

## 1 基本的な考え方

### (3) 周辺施設との機能整理：コミュニティプレイスとしての役割

#### 子どもたちが発見や驚きに“出会い”、興味や関心を“育む” コミュニティプレイスを目指します

「中町第2 - 2地区」では、こども未来館と中央図書館を含む複合施設の整備を目指しています。中央図書館は、厚木市立図書館の中心機能として、書籍という多くの「知」が集積される場です。そのため、その資産を活用して、来訪者の知識を“広げ・深め”、知的欲求に応えるという機能が考えられます。

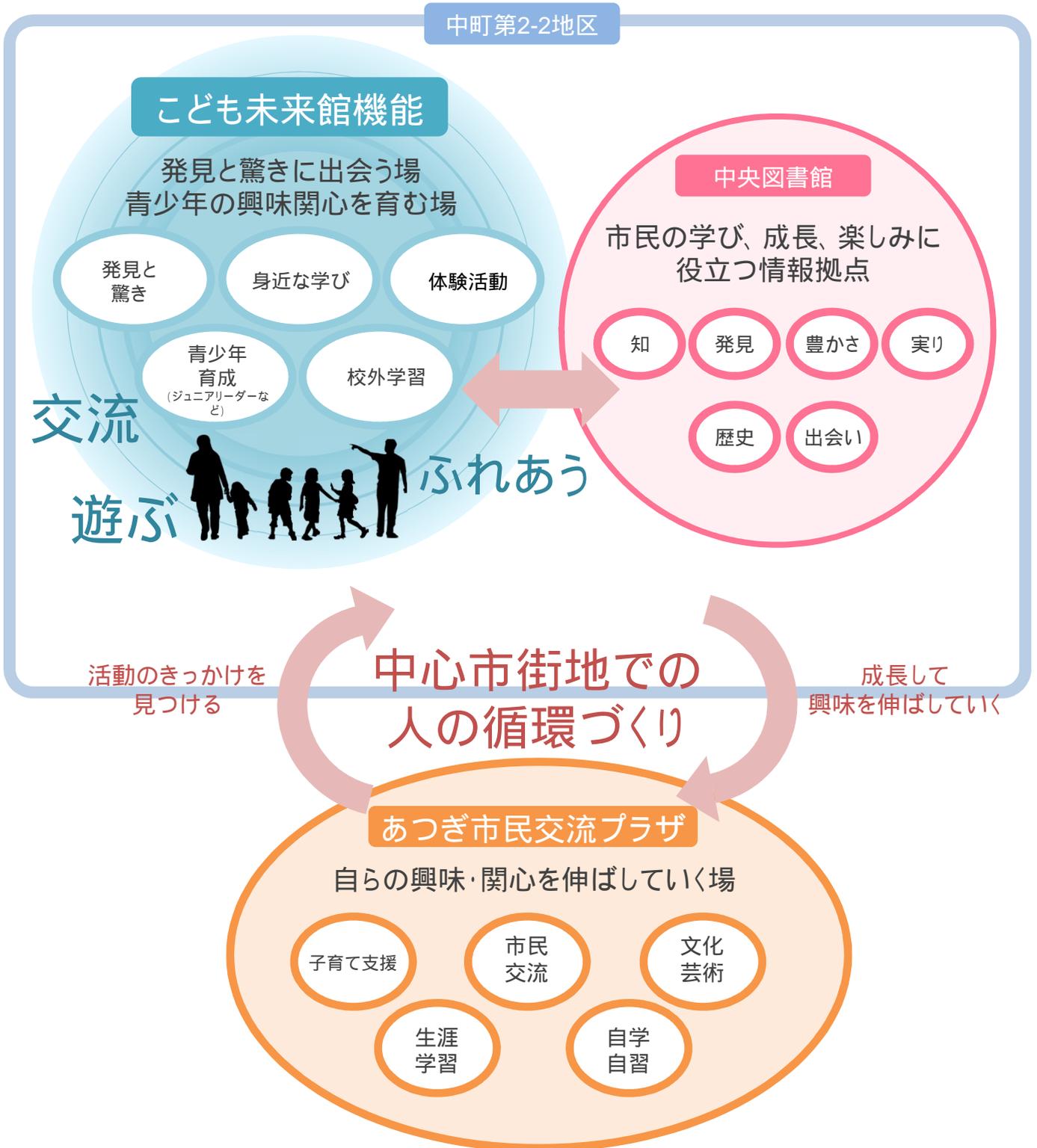
平成26年にオープンしたあつぎ市民交流プラザ（アミューあつぎ5～8階）では、子育て支援のほか、文化芸術や生涯学習活動の場となるなど、市民活動の様々な受け皿となっています。また、最近では高校生の放課後の自学自習の場として利用されるという効果もあり、様々な活動や自学自習を通して、自らの興味関心を“伸ばしていく”という役割を担っているともいえます。

このような周辺環境において、子どもたちの未来に役立つ場として求められる機能として、子どもたちの興味や関心を“育む”ことが挙げられます。また、興味や関心を持ってもらうために、発見や驚きに“出会う”機能も必要となります。

こども未来館がこのような機能を持つことで、主なターゲットである未来を担う子どもたちの興味や関心を“育む”ことを起点に、知識を広げ深めていく図書館利用につながったり、また、自らの興味や関心を伸ばしていく場であるあつぎ市民交流プラザを利用したりというような、中心市街地での循環づくりにもつながっていきます。

中心市街地での機能を整理し、こども未来館だけの機能を持つことで、施設の役割を明確にししながら、周辺施設との連携を図ります。

周辺施設との関係図



中央図書館については、厚木市図書館基本構想から抜粋

## 2 展開の方針

### (1) こども未来館整備におけるポイントと展開の方針

#### 想像力を育て、創造力を身に付ける楽しい学びの場

こども未来館は、未来を担う子どもを育てるため、子どもたちの好奇心を刺激し、探究心・想像力を育て、創造力を身に付けることができる、厚木市の魅力をいかした施設を目指します。

さらに、地域の大人たちが、子どもたちの成長に参加できる環境を整備し、誰もが気軽に過ごせるような場とすることにより、にぎわいの創出・発展につなげていきます。

#### こども未来館整備におけるポイント

##### ポイント 1 活動 づくり

子どもたちの自発的な学びと  
好奇心を育てていく  
体験メニューを提供します

- 子どもたちが、より主体的に学習し、考えることで、生きる力を身に付けることを目指します。
- 生きる力には、身の回りの様々なものや出来事に好奇心を持ち、不思議さに気づき、心を育むことが不可欠です。
- 遊びや体験を通じて、子どもたちの自発的な好奇心や気づきを引き出し、育てていくことが必要です。

##### ポイント 2 魅力 づくり

厚木市が持つ自然や地域力、  
産学官とのネットワークをい  
かし、市内企業・大学との連  
携による厚木ならではの展示  
及びプログラムを展開します

- 厚木市には暮らしや社会を支える企業や研究機関が集積しており、「さがみロボット産業特区」にも指定されています。
- 市内5大学を始め、様々な大学との協定など、人材育成や教育面での連携を図っています。
- 大山、相模川など、身の回りに多彩な表情を持つ自然が存在しています。

##### ポイント 3 環境 づくり

多様な人々が気軽に過ごせ、  
日常利用できる公園のような  
魅力を持った施設とします

- 厚木市に新しくできるこども未来館としての在り方を考えていくため、こども未来館と図書館の機能を融合させていきます。
- 他の施設（あつぎ市民交流プラザ等）にはない機能・魅力をつくることで、更なるにぎわいと交流を創出し、厚木市の活性化を目指します。
- 他の施設との連携を検討し、話題性を創出します。

その実現に向けて「活動づくり」「魅力づくり」「環境づくり」の3つの視点から、事業及び施設の具体的な在り方について検討し、求められる機能を抽出します。

こども未来館に求められる機能

**体験** 遊びや体験を入口に子どもたちが“ドキドキ・ワクワク”に出会う

座学にとらわれない学びを提供し、日常に潜む不思議を発見していく参加体験性の高い施設として展開。様々な体験（参加性の高い展示装置や参加体験講座の開催）を通して、好奇心を刺激し、探究心・想像力を育み、ドキドキワクワクに出会いながら、厚木市の未来を担う子どもたちの成長に寄与することを目指します。



**コンテンツ** 身の回りの学びをより“身近に”感じる厚木独自のテーマ設定

体の中の世界から身の周りにある科学、宇宙という遠くの世界まで、自分を取り囲む世界を自分との距離の遠さでテーマ別に分類して紹介する。近いものはより身近に、遠いものも身近に感じ好奇心を持って学べるように、テーマ設定を工夫して学びを提供します。



**知との融合** 複合施設の特徴をいかした“日本初”の新しい学びを創出する

公園のように誰でも立ち寄れ、気軽に過ごせる空間として、こども未来館と中央図書館を融合させることにより、遊びと体験と学びが詰まったこれまでにない新しい施設の展開を目指します。融合においては、スペースを一体的に使うこと、事業連携の二つの面からの展開を検討します。

**厚木の街×本の世界**

厚木の身近なテーマを展示化した「体験」と知識への身近な入り口である「本」の融合により、新しい学びにつなげる。

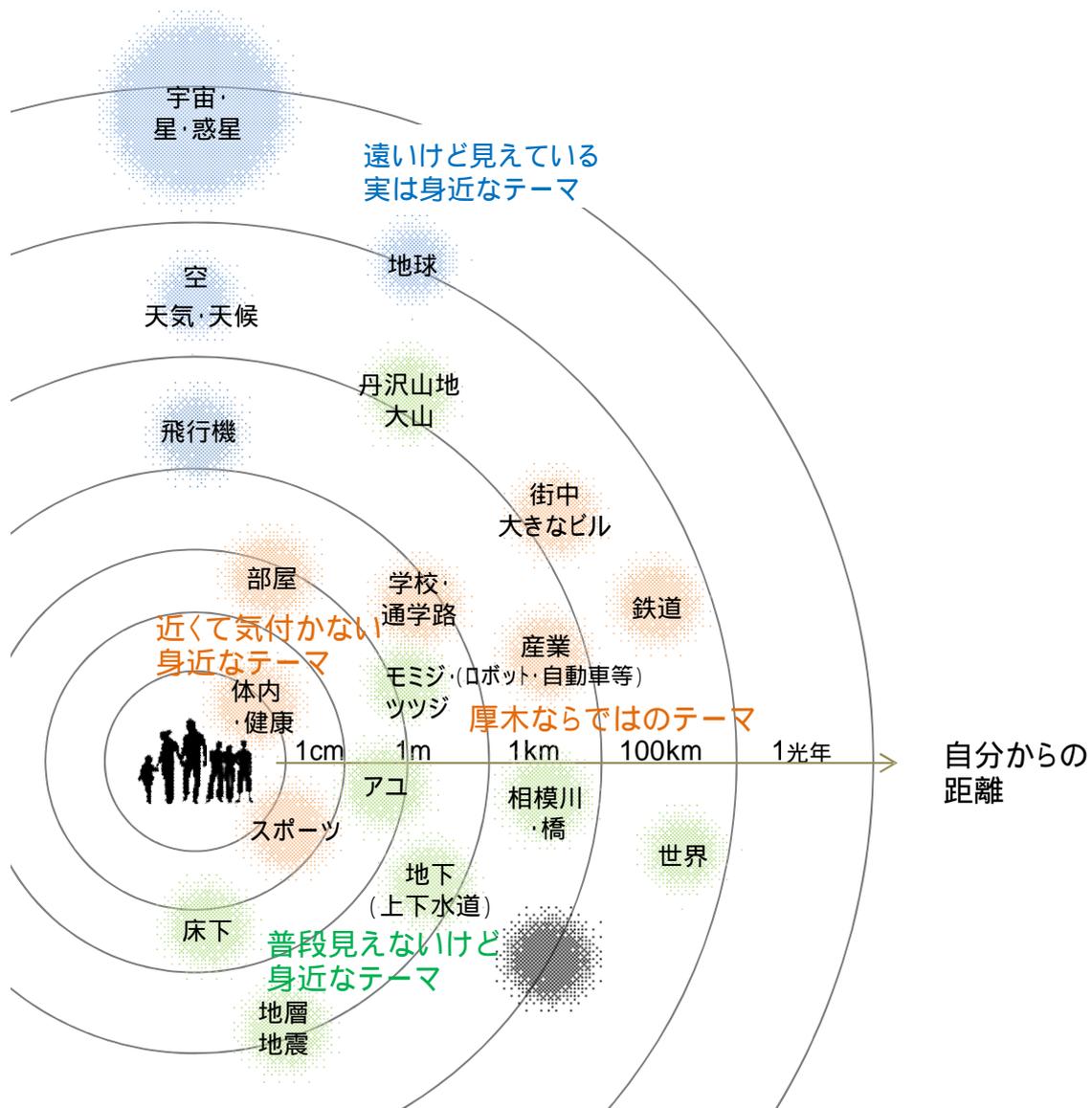
## 2 展開の方針

### (2) 厚木を身近に感じられるためのコンテンツ・テーマ設定

遊びや体験などを通して、学びの効果を高めるための方策の一つに、来館者にとって身近な視点から学ぶことが考えられます。こども未来館では、来館者自身からの様々な距離感から、厚木市独自のテーマを設定していきます。例えば、自分にとって一番身近なものとしては、体が挙げられます。また1mであれば、自分の机にあるもの、10mであれば、家の中にあるもの、100mであれば、通学路にあるもの、1kmであれば厚木の自然や街中にある科学、産業などがあります。更に広げていくと、空、地中、そして宇宙も、気付きにくいものですが身近なものといえます。このような、来館者にとって身近な視点から、こども未来館で提供する「テーマ」を抽出し、設定していきます。

さらに、様々な身近なものの中には、「なに」や「なぜ」がたくさん隠れています。日常の中の身近なものに隠れた「なに」、「なぜ」という疑問を解き明かすことで、「驚きと発見に出会う場」、「興味関心を育む場」として相応しいテーマを設定することにもつながります。

#### コンテンツ・テーマ設定の概念図



## (3) 施設イメージ

# あつぎ フューチャーワンダーパーク

厚木の子どもたちを始め、地域の人々を新しい学びへと誘う、厚木の身近がいっぱい詰まった地域に開かれた遊びと体験の場であり、公園の様に人々が毎日気軽にふらっと集まり、好奇心を全開にして遊びながら暮らしの中にある不思議を見つけたす驚きと不思議にあふれたお気に入りプレイスです。

人々が毎日気軽にふらっと集まり、厚木の身近な不思議がいっぱい詰まった「あつぎフューチャーワンダーパーク」で、好奇心を全開にして遊びながら、“なに？なぜ？なるほど！”という“ワンダー（驚き）”に出会い、気付きや学びを引き出す遊びと体験がいっぱいの自由なフィールドを施設のイメージとします。

## あつぎフューチャーワンダーパークのイメージ





## 第3章 施設・活動展開のイメージ

---

# 1 ゾーニング及び動線・諸室の活動の検討

## (1) あつきフューチャーワンダーパークを構成する3つの要素

第2章で掲げた施設イメージを基に、ゾーンを検討するうえで配慮すべき視点を整理します。

### 施設イメージ

厚木の日常の中で、“なに？なぜ？なるほど！”という「ワンダー（驚き）」に出会い、気付きや学びを引き出す遊びと体験がいっぱいの自由なフィールド

# あつき フューチャーワンダーパーク

遊び・体験・学びの3つのゾーンで構成します。

## 1 遊び

厚木の街や自然などの魅力を、遊びながら気付いていく、遊具や公園をイメージした仕掛けを展開していきます。

遊びながら  
自由に学べる

## フィールド プレイ展示

## 2 体験

日常の中に隠れている「なに」「なぜ」を、体験しながら学べるハンズオン展示など参加体験性の高い仕掛けを展開していきます。

体験を通して  
気づきや学びにつなげる

## くらし エクスペリエンス 展示

## 3 学び

ワンダーパークゾーンの随所に展示と図書館を融合させた機能を配置し、更に深い学びと体験につなげる仕掛けを展開していきます。

遊びや体験を  
補完する

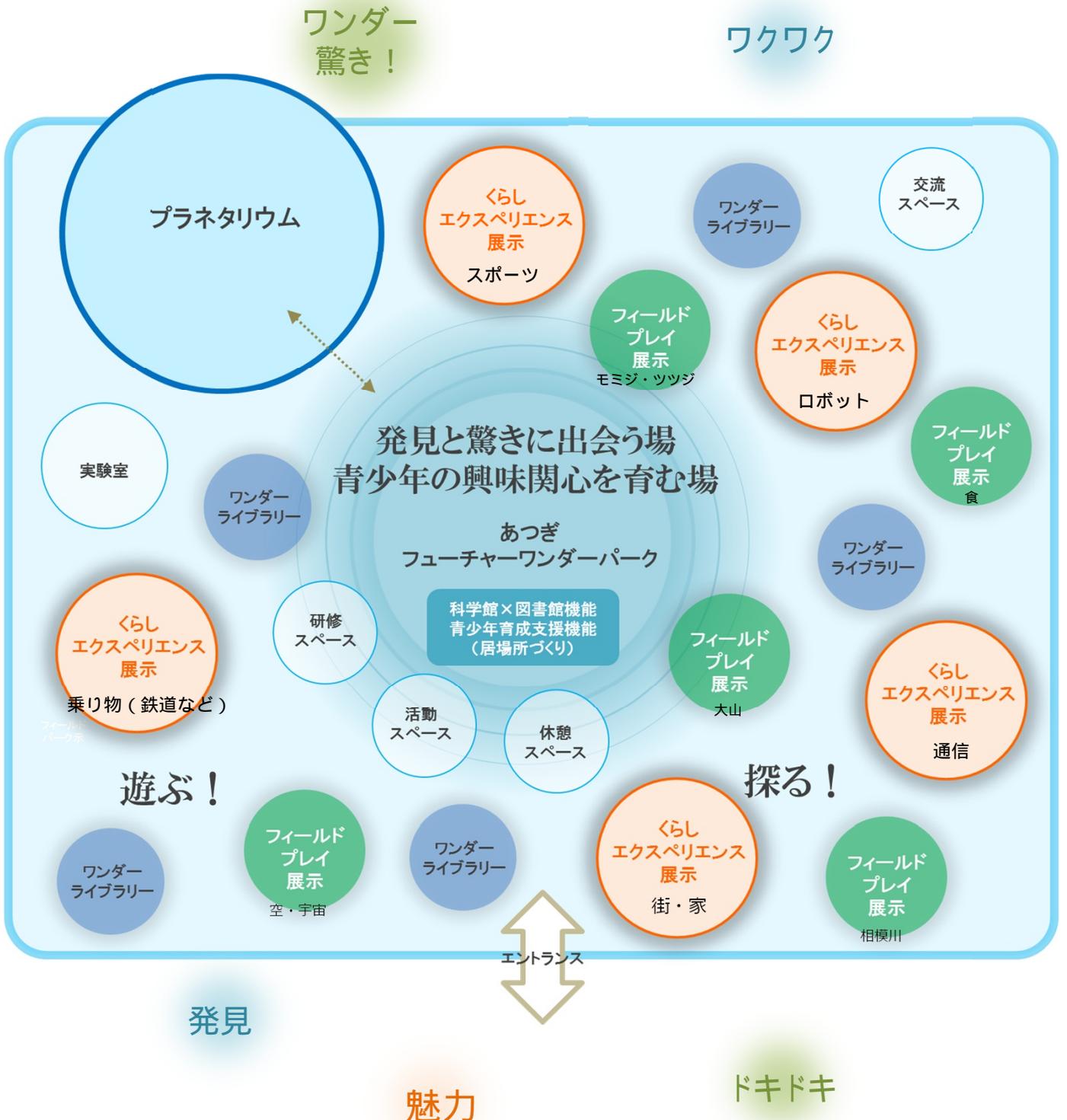
## ワンダー ライブラリー

遊び・体験・学びを融合

展示機能と図書館機能が一体化した日本初のコミュニティプレイスへ！

(2) あつぎフューチャーワンダーパークのゾーン構成

あつぎフューチャーワンダーパークの中には遊びと不思議をテーマとしたフィールドプレイ展示・日常と体験をテーマとしたくらしエクスペリエンス展示・展示と図書を融合させたワンダーライブラリーと、その他従来の機能を継承した交流スペース・休憩スペース・研修スペース・活動スペース・実験室・事務室等で構成されています。固定的な動線を設定せず、自由に回遊できるゾーン構成とします。



## 1 ゾーニング及び動線・諸室の活動の検討

### (3) 各ゾーンの活動及び空間イメージ

#### フィールド プレイ 展示

アスレチックを中心に展開することで、  
子どもたちの好奇心を刺激し、  
遊びながら自由に学べる広場

#### 特徴

厚木の日常風景（自然・街・家庭等）に潜む不思議をテーマとした遊びと体験のゾーン。遊び・体験を通じて子どもたちの好奇心を喚起し、発見と学びにつなぐことができます。子どもたちが安心して自由に過ごせる新しい居場所としての機能も持たせます。

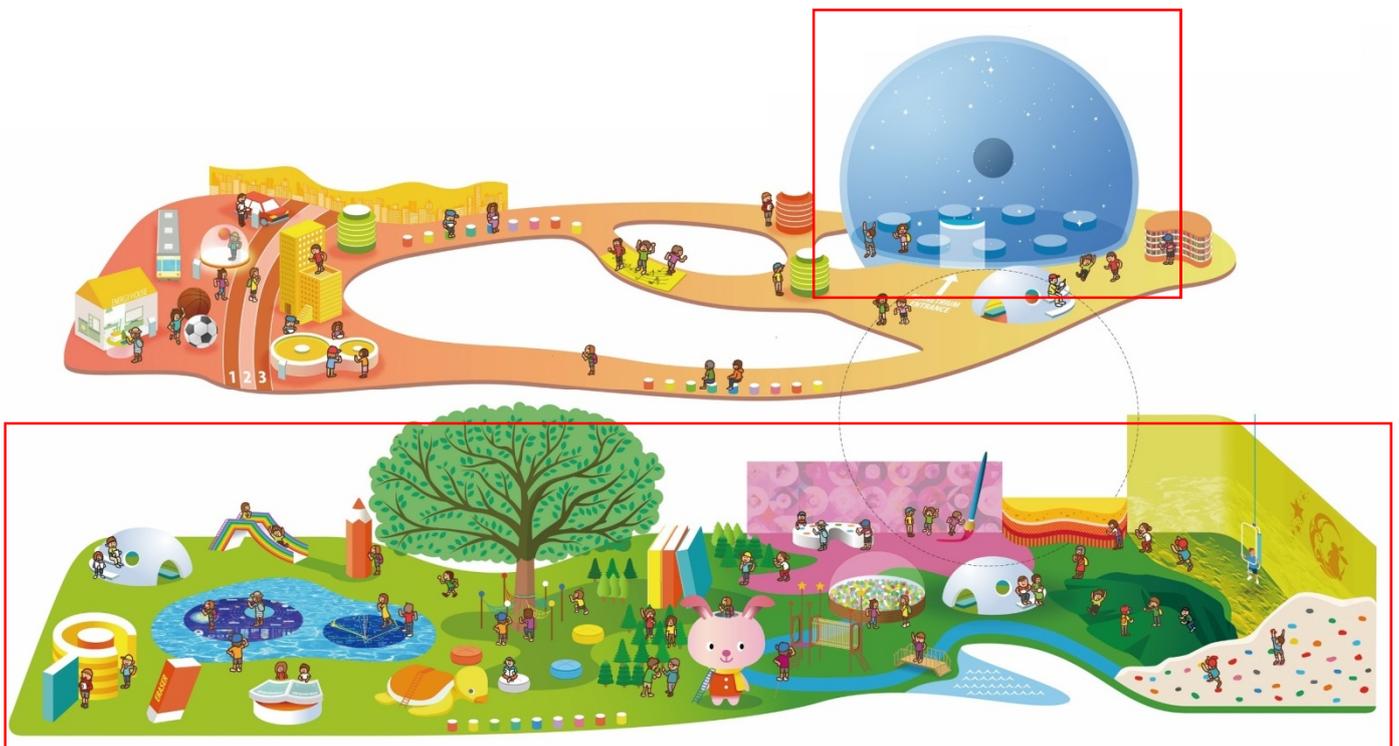
#### 展開例

##### ● プラネタリウム

驚きと感動の科学体験を提供するとともに、集客の核として機能。天文学に関する投影だけでなく、地学や生物学、厚木の街に関する科学など、幅広い分野の投影を行います。また、演奏や講演会など多目的な活用を検討します。

##### ● ワンダーアスレチック

大山や相模川、街、住まいなど、厚木の環境資源や名物などをモチーフとしたアスレチック。遊びながら、身近に潜む科学や厚木の魅力を知ることができます。



フィールドプレイ展示のイメージ



プラネタリウム



プラネタリウムの座席は、シート席だけでなく、ソファ席など、**ゆったりとくつろげる空間**となるよう検討します。

ワンダーアスレチック



厚木市の自然や環境などをモチーフとしたアスレチック。体を動かす過程で、人体のしくみや力学の法則など、自然科学への興味も育みます。

相模川ボールプール



相模川に生息する生き物などであふれた相模川に見立てたボールプール。遊んでいるうちに相模川に生息する生き物や川の環境を学習できます。

月面ウォーキング



月の無重力を体感することができる展示装置。無重力の原理や、地球との重力の差を体で覚えることができます。

# 1 ゾーニング及び動線・諸室の活動の検討

くらし  
エクスペリエンス  
展示

自分で手を動かしたりサイエンスショーを観るなど、体験や実験を通して生活や日常の中にある技術や原理を学べる場

## 特徴

日常の身の回りの最先端科学・技術や原理を探検し、発見していく参加体験型展示。身近な問いかけをきっかけとして、その秘密を解き明かしていきます。

## 展開例

### ● ハンズオン展示・テーマ展示

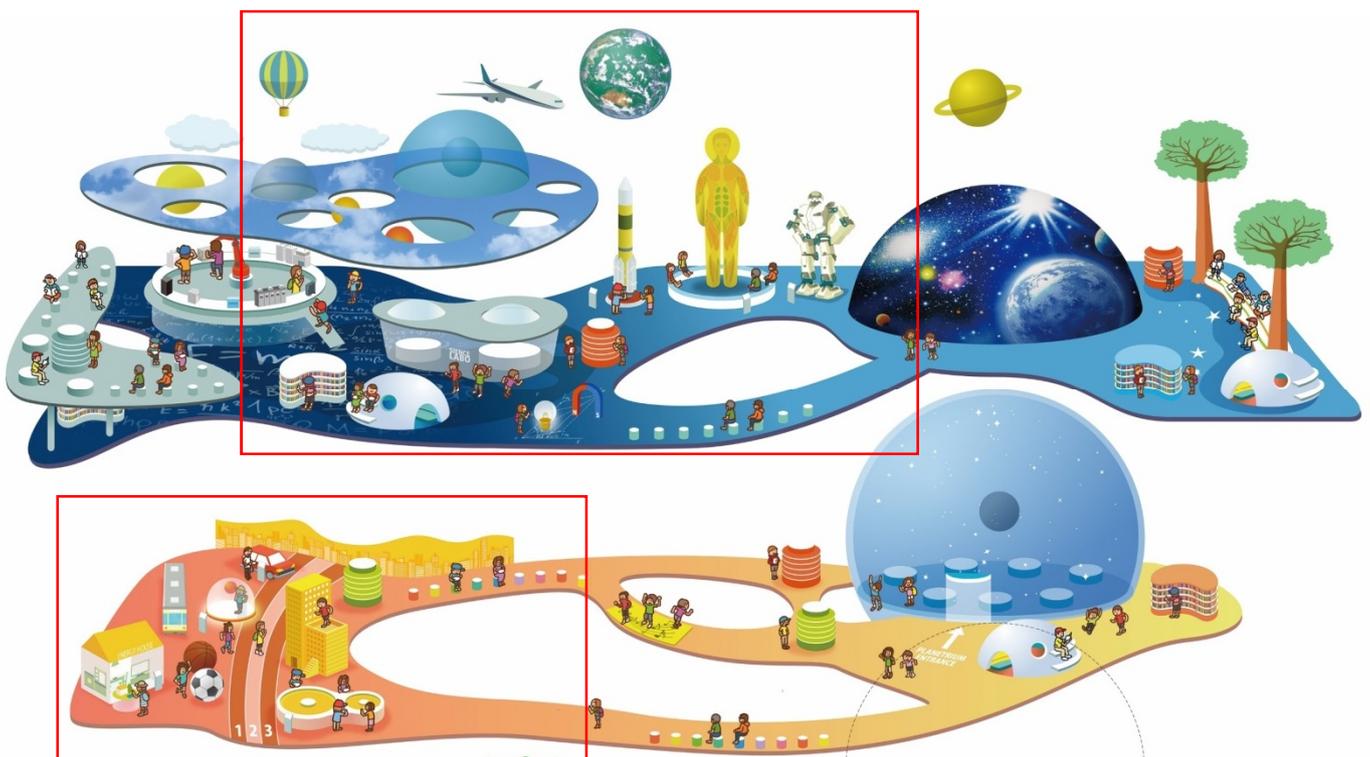
探検と発見が詰まった空間。厚木の特徴であるロボット産業のほか、通信技術、自動車技術、スポーツ科学など地域の企業・大学にちなんだ展示スペースです。

### エクスペリエンスラボ

サイエンスショーの日常的な開催のほか、工作キットやワークショップキット（様々なテーマに対応した実験器具や素材などをパッケージ化したもの）を使って、日常に潜む科学を実験を通して体感できる活動を行います。

### 特別展示（企画展示）

年間を通してテーマを変えながら企画展を開催します。既存の展示と関連した内容の展示を行います。



くらしエクスペリエンス展示のイメージ



エクスペリエンスラボ



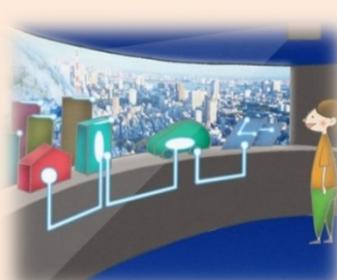
工作キットを使って目や耳で確かめることで科学の原理について学習できる展示やワークショップを行います。

ハンズオン展示・テーマ展示



プロジェクションマッピングやタッチモニター、ハンズオン、模型など、様々な手法で展示を展開します。

特別展示（企画展示）



厚木にまつわる様々なテーマについて多彩な手法で展示します。  
（例：大学・企業と連携した企画展示など。）

## ワンダー ライブラリー

## 展示機能と図書館機能が融合 新しい体験が詰まった未来型図書スペース

### 特徴

遊びや体験を補完し、展示に関係する本に出会える場。来館者のワンダー（驚き）と好奇心を深めるために、展示やサイエンスショーの周辺でテーマに合わせた関連書籍を紹介する書棚を配置。展示やサイエンスショーで興味を持った内容について、より詳しく知ることができます。

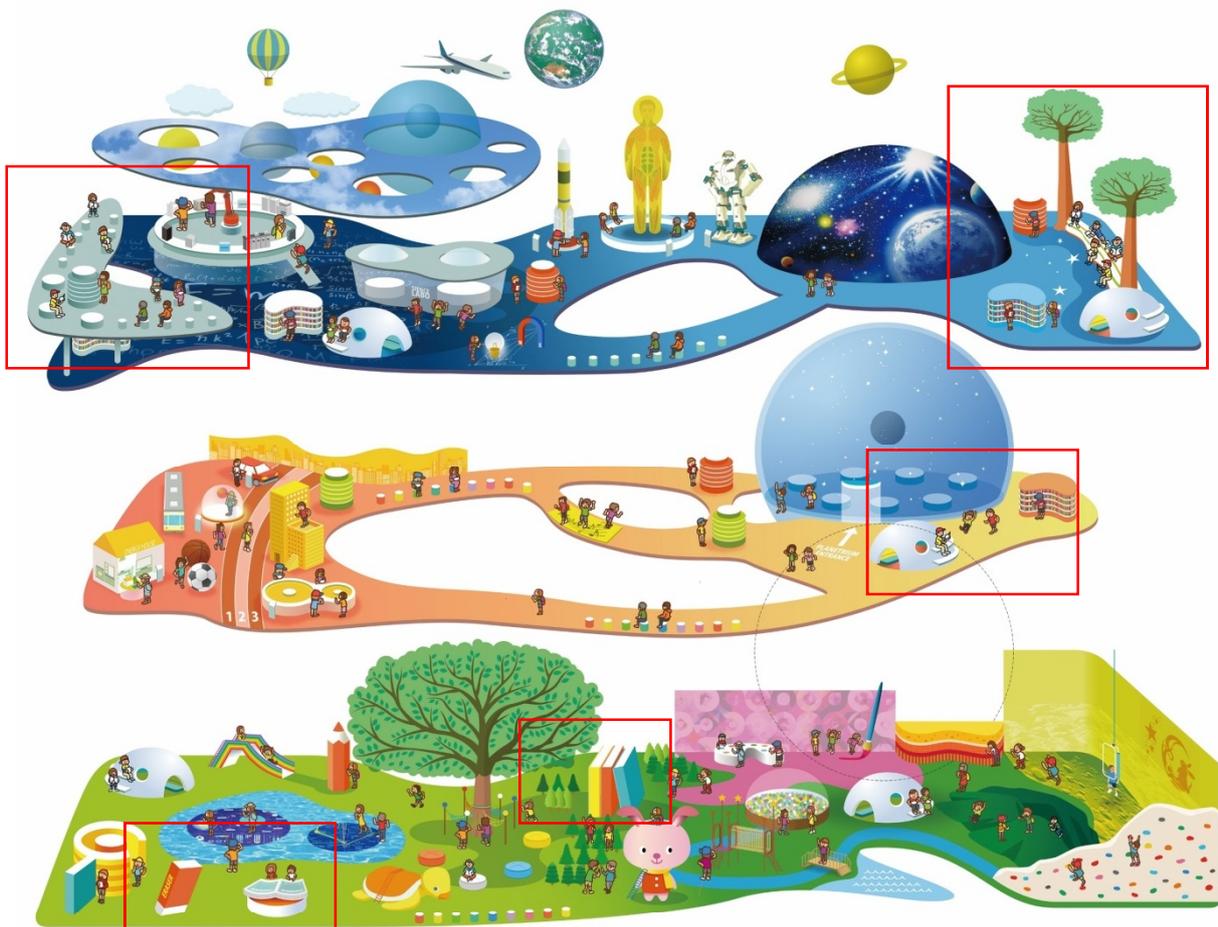
### 展開例

#### ● ワンダーブックシェルフ 10

展示やサイエンスショーの内容とその関連図書を併せて紹介できる書棚。遊具としても利用できる複合体験展示装置として位置付けます。

#### 読書スペース

じっくり読書ができるスペース。展示やサイエンスショーに関連する書籍を取りそろえた書棚も設置し、展示で気になった事柄について確認できるように、展示の周囲に展開します。



ワンダーライブラリーのイメージ



### ワンダーブックシェルフ



書籍、映像、写真、実物などを引出しや扉に収め、来館者が楽しみながら情報を得ることができます。

### 読書スペース



映像の投影や、読み聞かせを行うスペース。休憩しながら読書することができます。また、読み聞かせのための防音環境も整えます。

### ワンダーブックシアター



本の形をした造形にプロジェクターで映像を投影。本が苦手な子どもたちに、映像で内容をダイジェストで伝えることで、読書への興味を喚起します。

### 見晴らし図書館



展示を見渡しながらか読書ができる、休憩スペースも兼ねた空間とします。貸し出し機能も付帯させることで検討していきます。

## 1 ゾーニング及び動線・諸室の活動の検討

### (4) 施設構成及び動線の考え方

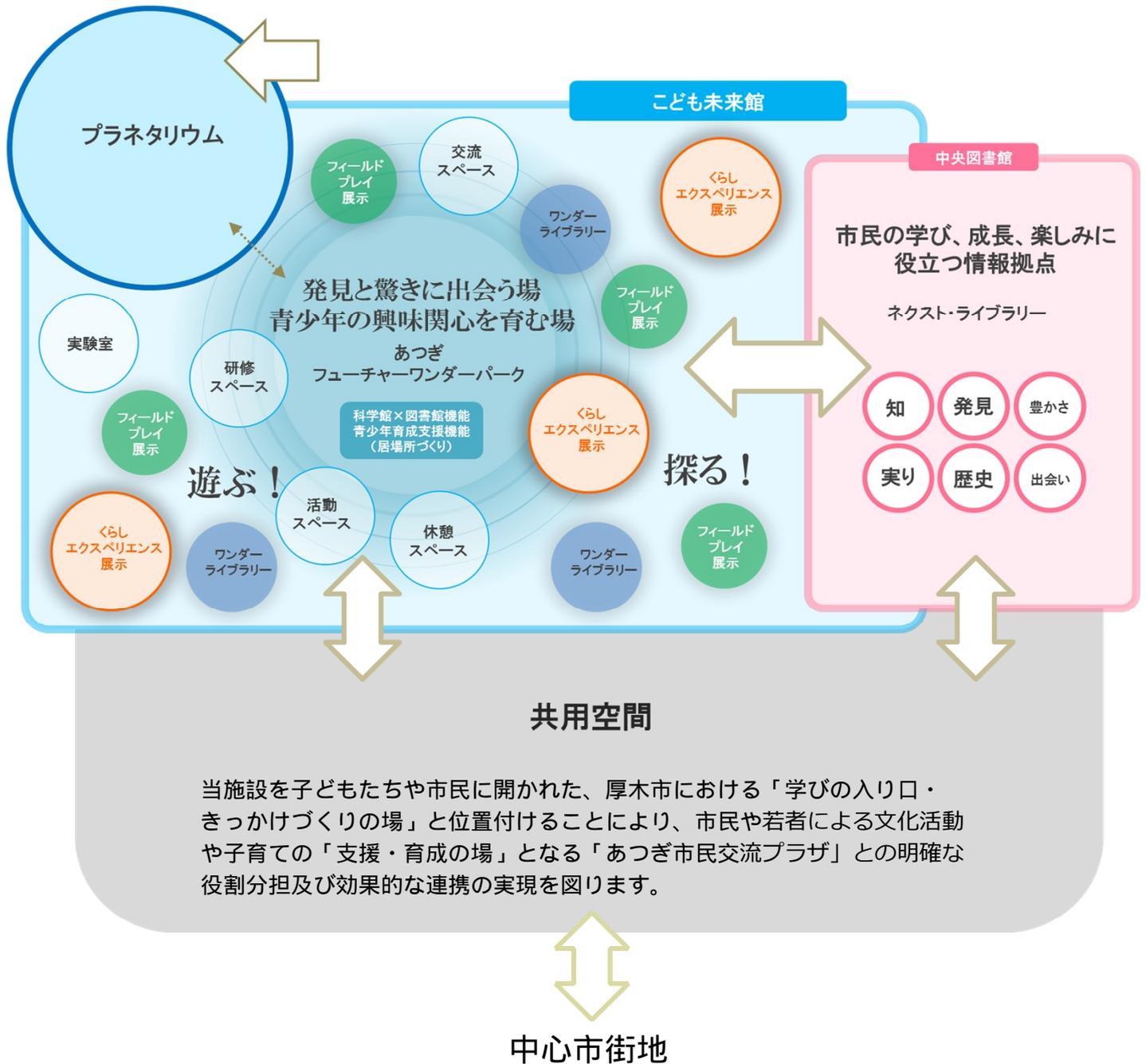
**こども未来館と図書館を相互に行き来する動線を確保し融合・連携を強化。また、共用空間との動線を確保することで中町第2 - 2地区内での回遊性を高めます。**

こども未来館と図書館は、複合施設内での融合・連携の強化や回遊性の向上を目指して、相互の往来ができる動線の確保と施設配置とします。こども未来館にあるプラネタリウムへの動線については、今後料金の徴収方法や管理運営計画を進めながら、「こども未来館からのみアクセスできる」や「共用空間からこども未来館を通らずに直接アクセスできる」といった様々な可能性を模索していきます。

また、こども未来館及び図書館ともに、中町第2 - 2地区の施設全体の共用空間からアクセスできる施設配置とします。共用空間は施設全体の顔として、こども未来館と施設全体を緩やかにつなげます。この共用空間では、様々なイベントを開催できる公園の様な空間を目指すことで、中町第2 - 2地区全体としてにぎわいのある場を創出することができます。

こども未来館と図書館を公園の様なにぎわいのある共用空間の動線を確保することで、中町第2 - 2地区内、更には中心市街地全体の回遊性の向上につながっていきます。

施設構成・動線概念図



当施設を子どもたちや市民に開かれた、厚木市における「学びの入り口・きっかけづくりの場」と位置付けることにより、市民や若者による文化活動や子育ての「支援・育成の場」となる「あつぎ市民交流プラザ」との明確な役割分担及び効果的な連携の実現を図ります。

## 1 ゾーニング及び動線・諸室の活動の検討

### (5) 既存団体の活動の発展

#### **青少年関係団体の活動の延長として、 こども未来館を積極的に活用し、施設の管理運営を 支える「未来館サポーター」としての組織化を検討します**

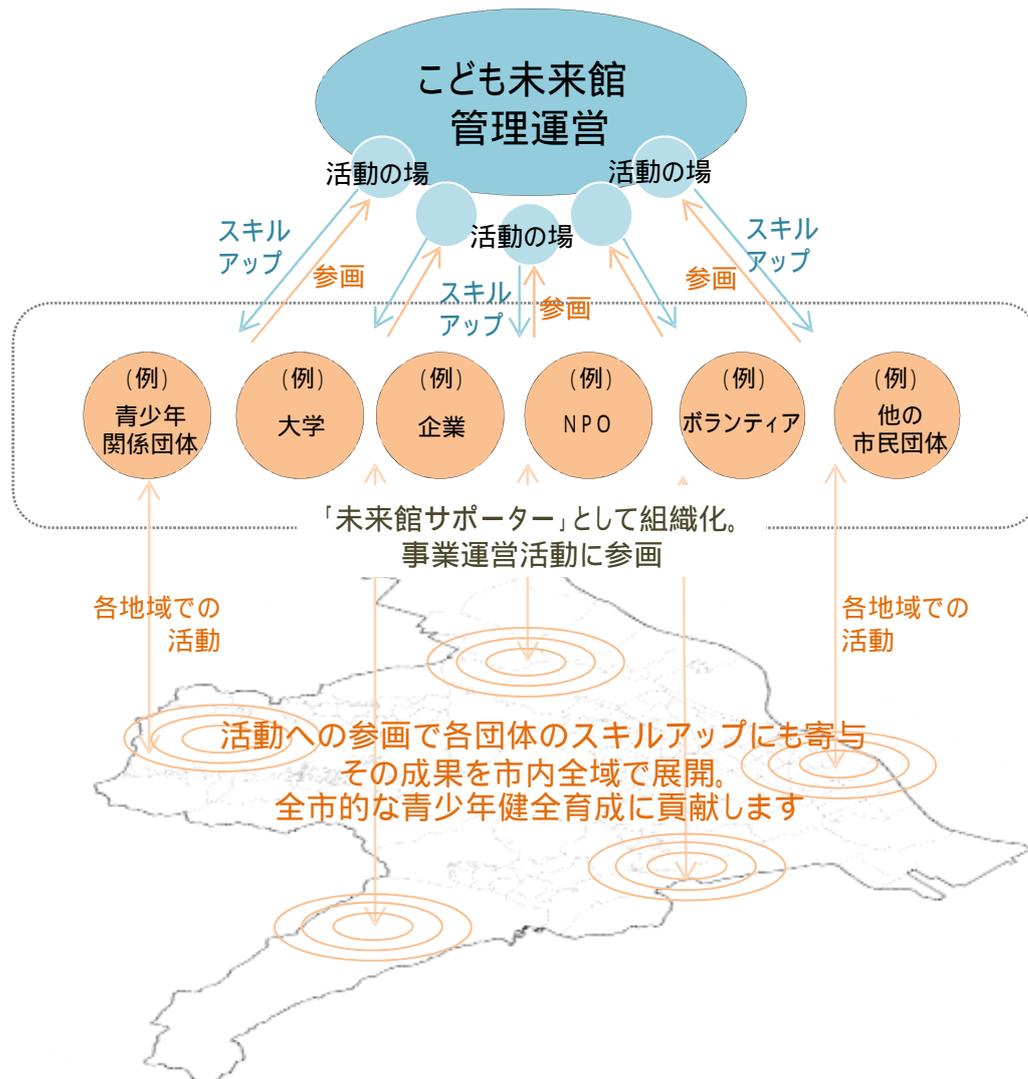
現在の厚木シティプラザには、青少年関係団体の活動拠点のほか、神奈川工科大学の学生によるイベントやワークショップなど、様々な団体やボランティアの活動があり、その人数は160人にも達します。これらの団体は、これまで各自の活動を中心に行ってききましたが、「青少年健全育成に資する」という点で大きな目標は共通しているといえます。

こども未来館については、このような団体が積極的に参画できる環境を整備するとともに、各団体の活動成果等を、こども未来館の管理運営に参画できるか検討します。参画に当たっては、共通の理念の基に活動してもらい、「未来館サポーター」として組織化することも積極的に検討することで、これまでの活動を、次世代の青少年健全育成を支える仕組みへと発展させていきます。また、こども未来館での管理運営に参画することで、様々な交流や経験を通して各活動団体のスキルアップにもつながり、その成果を、各団体の市内での活動にフィードバックする効果も期待できます。検討に当たっては、各事業の特徴をいかすための活動スペースの確保といった、こども未来館での機能確保に加えて、各活動を市内全域・各地元（例：公民館、各学校など）での展開も検討することで、こども未来館が、青少年健全育成にも貢献する、各団体活動の中核拠点（センター機能）としても位置付けていきます。

青少年関係団体の活動の場のイメージ

名称	主な活用用途
交流スペース	調べ学習や体験講座などを通して学んだことを発表する成果発表ギャラリーや、厚木市の魅力を発信する学びの情報発信スペースの整備を検討します。
休憩スペース	休憩機能及び、未就学児キッズスペースを想定します。子どもと一緒に大人も休める場とします。また、子育て相談室や授乳スペース等も整備します。
活動スペース	青少年課機能と青少年関係団体などの利用、ジュニアリーダー、子ども会などの指導員の活動場所として整備します。
研修スペース	調べ学習で得た知識や、講座体験によって学んだことを共有し、意見交換できる共有と対話の場所として整備します。

未来館サポーターの組織化と市内波及イメージ



## 1 ゾーニング及び動線・諸室の活動の検討

### (6) 学習支援・交流事業の考え方

学習支援や交流事業により、人々が交流できる機会を提供し、学校や地域との連携を更に強化します。また、こども未来館ならではの設備や人材、大学や企業等とのネットワークをいかして、様々な体験を提供することを目指します。

#### ア サイエンスショー

常設展示にはない体験の提供や、常設展示を補完する内容を展開します。驚きに出会うことで、学びへの興味・関心を高め、より深く理解する機会とします。

#### イ 体験プログラム

週末・長期休暇を利用して、参加体験講座や科学教室、講演会などを企画・実施するとともに、継続的な講座を年間を通して開催します。

#### ウ 教員や指導者との連携

学校教育と連携したイベント等、学校では体験できない内容や、企画展の開催を検討します。また、学校団体の課外学習での利用促進にもつなげます。

#### エ 人材育成・ネットワーク形成

展示物解説、運営補助、企画開発、参加体験講座・プログラムの補佐を行う運営ボランティアなど、こども未来館に関わる人材を幅広く育成します。また、企業、大学、研究機関、科学系博物館等の施設との連携促進に向け、ネットワーク組織の設置を検討します。

#### オ 調査研究・企画開発

参加体験講座、プログラムや科学教室、サイエンスショー、企画展示を企画し、利用者からの評価を通して、運営や活動に関する調査研究を行い、運営の改善を図ります。

(7) 諸室の想定(案)

展示のゾーニング及び動線に加え、必要な諸室の想定を行います。検討に当たっては、3つの視点を重視します。

**視点1** 子どもたちが遊び、走り回れる・団体での来館にも対応しうる面積の確保

**視点2** 将来的な展示の増加にも配慮した展示スペース・収蔵室や倉庫の設定

**視点3** ランニングコストの低減や、管理運営の効率化につながる建築空間・展示空間

現状の子ども科学館における諸室の状況と今後の施設の在り方を基に、こども未来館における必要な諸室を以下のように想定します。

諸室		内容	設定理由等
エントランス		こども未来館と図書館の共用スペース	イベント機能(ステージエリア等)
フィールド プレイ 展示	ワンダーアスレチック	子どもが走りまわって遊べるアスレチックのあるスペース	ハンズオン展示と一体的に展開
	プラネタリウム	天文に関する投影を始め、厚木の自然や科学に関するさまざまな投影を行う。	周辺付帯諸室を含む。
くらしエクス ペリエンス 展示	ハンズオン・ テーマ展示	テーマごとに参加体験性の高い展示物を配置したスペース	アスレチック展示と一体的に展開
	エクスペリエ ンスラボ	簡単な実験・工作を行うスペース	気軽に参加できる場所を想定。 サイエンスショーの場所を含む。
	特別展示	期間ごとにテーマを変えて展示をおこなうスペース	体を動かせる企画展、特別展の開催や、ワンダーライブラリーの拡張にも対応
ワンダーライブラリー		展示に関係する書籍が並んでいるスペース	分散してくらしサイエンス展示と一体的に展開。 中央図書館「子どもの本のフロア」同等面積を確保
交流スペース		図書館との共用も検討	学びの情報発信スペース、成果発表ギャラリー機能
休憩スペース		乳幼児や乳幼児、親が休むスペース	赤ちゃん駅ベビリア及び未就学児キッズスペースを含む。
研修スペース		調べ学習で得た知識や、講座体験によって学んだことを共有するスペース	学校教室2クラス分程度を想定
活動スペース		青少年課機能・団体やジュニアリーダーが活動するスペース	青少年課・団体活動スペース・関係者休憩機能
実験室		子ども向けのやや高度な実験をおこなうスペース	科学準備室も含む。
事務室等		未来館機能と青少年課機能を統括するスペース。運営スタッフなども常駐する	収納庫、事務室・受付、暗室、ボランティア待機スペース
通路・共用スペース等			

## 2 管理運営に関する検討

### (1) 管理運営方針

厚木市をとりまく環境や、社会の変化に柔軟に対応する管理運営体制を検討し、限られた資源の中で最大限の効果を発揮する運営に努めます。

#### ア おもてなしの質の向上

利用しやすく、誰でも気軽に来館できる空間を提供します。来館者一人一人が、楽しんで学び厚木市の魅力に気付ける豊かな時間を提供します。

#### イ 展示・活動の質の向上

利用者のニーズを考慮した、魅力的で質の高い展示・活動を企画します。

### (2) 開館時間・休館日

季節や曜日によって開館時間を変更したり、学校の長期休暇や振り替え休日等を考慮するなど、利用者の立場に立った開館時間・休館日とします。また、駅前の立地や図書館との融合を踏まえ、学校帰りの高校生などの青少年の活用を想定した時間設定も検討します。

### (3) 使用料（入館料など）

現在の子ども科学館では、プラネタリウム観覧料や、ワークショップなどで材料実費を徴収しています。入館料については、管理運営コストの軽減から検討を行います。貸室を設ける場合は、その使用料の設定について併せて検討していきます。

**(4) 管理運営体制（組織・人員）**

こども未来館の運営においては、これまで以上に地域との連携、外部への広報、市民参加、教育普及などの事業に力を入れていくことが求められます。そのため、専門知識を有する学芸員などの配置が必要となります。また、情報発信力を強め、地域や他の施設とのネットワークを構築していく上で、連携や広報を担当する職員の配置も必要と考えられます。

**主な担当**

機能	担当名称	担当内容
運営機能	専門担当 (学芸員等)	常設展示及び特別展示（企画展示）や参加体験講座・プログラムの企画、実施、運営を行います。また、科学館として充実した活動を展開するために、科学や博物館教育を専門とする学芸員、理科などの教職資格者等の資格者や専門的な知識を有するスタッフの配置を検討します。
	広報・ 地域連携担当	情報発信や、外部の協力者との交流に積極的に取り組み、マネジメントやファシリテーションに専門的な知識を有する人材の配置を検討していきます。
施設管理機能	施設管理担当	建物・展示の維持管理・保守及び警備、清掃等の施設管理業務を行います。
	来館者対応担当	案内・誘導、チケット販売、展示室での監視、問い合わせ対応等の業務を行います。

**(5) 管理運営方式**

現在の子ども科学館の管理運営は、市の直営となっています。今後は、民間のノウハウの活用なども視野に、来客対応業務や展示解説や施設の維持管理など、専門分野の部分委託や指定管理者の導入など、様々な可能性を検討します。



## 参考資料 類似施設の状況

# 1 類似施設の特徴と傾向

## (1) 類似施設の特徴

今後の整備や管理運営の参考になると思われる施設について調査しました。調査対象としたのは、常設のプラネタリウム（若しくはドームシアター等）を有する、下記の10施設です。

施設名称	テーマ			特徴
	自然	理工	天文	
千葉県科学館	○	○	○	スタッフやボランティアを配置し、人と人とのふれあいを中心としたコミュニケーションを展開する事業・運営が行われている。
名古屋市科学館	○	○	○	世界最大規模のプラネタリウムのほか、自然・理工・天文・生命など多岐に渡るテーマを参加体験を通して学べる。
サイエンスヒルズこまつ		○		くらしと科学の結びつきや、小松市内の企業と連携した展示を行っている。
出雲科学館	○	○	○	学校のカリキュラムに合わせた展示物を中心に展開している。
佐久市こども未来館	○	○	○	各エリアごとにテーマ展示が展開され、探検し遊びながら科学の面白さへの気付きを醸成する。
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ	○	○	○	工作室やライブラリーなどが付帯した複合施設で、ボランティアが施設の活動支援を行っている。
かわさき宙と緑の科学館	○		○	最新鋭のプラネタリウムや天体観測設備が特徴の科学館。
はまぎんこども宇宙科学館		○	○	参加体験性の高い展示が中心に展開され、直径23メートルの大型プラネタリウムと、サイエンス・ショウが人気を博している。
伊勢原市立子ども科学館		○	○	プラネタリウムでサイエンスショー、実験・工作教室を開催し、年代ごとに異なったプログラムを展開している。
福岡市科学館	○	○	○	「サイエンス&クリエイティブ」を掲げ、宇宙・生活環境・生命等のテーマから科学を体感できる。PFI事業で整備され、2017年10月に開館予定となっている。

## (2) 類似施設の傾向

### ア 施設規模について

展示面積については常設でも400㎡程度から1000㎡規模を有しています。その他に、企画展示、特別展示やプラネタリウム等の機能があり、対象の延床面積は、規模の大小はあるものの、数千㎡規模となっており、事業活動に応じた施設規模を確保する必要があります。

### イ 施設改修について

開館から数十年が経過した段階で、常設展示やプラネタリウム等の大型改修を実施しています。数十年後の施設改修を見据えた建物、設備とする必要があります。

### ウ 運営関連

入館者数については、施設規模や立地、自治体の抱える人口などにより大きく異なります。ただし、各施設ともに様々な事業やイベントの実施など独自性を出しながら管理運営を行っています。

### エ 運営形態等

直営若しくは指定管理者が多い傾向にあります。また直営の場合でも専門業務（来客対応業務、施設維持管理等）を外部に委託している場合があり、民間活力をいかした来館者サービスの向上を目指しているといます。

### オ その他（市民参加・地域連携等）

ボランティアなど市民参画による管理運営を実施している施設もあります。展示に関する案内にとどまらず、教育普及事業や広報に関する支援など、様々な市民参画の機会を用意することで、施設の管理運営の一翼を担ってもらうケースもあります。

### カ 入館料

小学生、幼児以下は料金を徴収しない施設もあります。また、幼児以下のみ料金を徴収しない施設や、シルバー世代の入館料を大人や大学生よりも安く設定している施設があります。プラネタリウムは入館料と観覧料を別途で徴収している施設が多いですが、出雲市科学館のように徴収しない施設もあります。

## 2 国内・神奈川県内の科学館及び類似施設の動向

### 千葉市科学館

スタッフや市民ボランティアが来館者とのコミュニケーションを通じて、“人から人へ”科学の不思議さや驚きを伝える“人が主役”の科学館。最新鋭のプラネタリウムや、視覚・音・光・数などの不思議を科学的に楽しく探究するフロア「ワンダータウン」、科学と技術をテーマにした「テクノタウン」、さまざまな科学の原理を観察や体験を通してひも解いていく、地球まるごと体験のフロア「ジオタウン」などそれぞれのテーマに沿って科学の世界を紹介しています。

所在地・人口	千葉県千葉市中央区中央4丁目5番1号				人口：約97.3万人（H29.1）	
初期整備 ・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数 （年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	千葉市	2007年10月	403,592人 (H27)	複合施設内	13,066㎡	4,052㎡

### 名古屋市科学館

「みて・ふれて・たしかめて」をコンセプトに、さまざまな展示や体験を通じて、子どもから大人まで楽しみながら科学にふれることができる総合科学館。世界最大のプラネタリウム「Brother Earth」のほか、約220種類の展示が楽しめます。サイエンスショーを始めとした実演や実験を毎日行っており、週末には身の回りの簡単な材料や自然素材を用いて製作する工房なども開催しています。

所在地・人口	愛知県名古屋市中区栄2丁目17-1				人口：約230.6万人（H29.2）	
初期整備 ・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数 （年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	名古屋市	1904年11月	1,394,003人 (H26)	4,263㎡	22,551㎡	7,400㎡

## サイエンスヒルズこまつ

地域産業と理科教育を結びつけた新たな試みの科学館。地域に根ざした企業に関する「産業・教育マトリックス展示」は、ものづくりのわざと知恵、その製品に潜む科学原理を融合した構成となっており、くらしに科学がどう結びついているのかを体験しながら、ものづくりへの興味や憧れを抱くきっかけにつながる展開となっています。また、ドーム型シアターは、科学関連番組の上映だけでなく、シンポジウムなどの多目的利用が可能です。

所在地・人口	石川県小松市こまつ2番地					人口：約10.8万人（H29.3）
初期整備 ・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数 （年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	小松市	2014年3月	16,022人 （H26.3.2～ H26.11.15）	6,153㎡	6,063㎡	1,000㎡

## 出雲科学館

小学3年から中学3年までの理科の授業をサポートする科学学習センターとなる科学館。世代を越えても楽しく体感することができる要素を重視したことで幅広い層の支持を獲得しています。理科の授業を支援しながら、実験や装置体験によって初めてわかる現象の不思議さ、面白さ、美しさなどを提供し子どもたちの、「科学するところ」を育む体験を提供します。

所在地・人口	島根県出雲市今市町1900-2					人口：約17.4万人（H29.3）
初期整備 ・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数 （年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	出雲市	2002年7月	152,266人 （H26）	4,399㎡	4,841㎡	830㎡

## 2 国内・神奈川県内の科学館及び類似施設の動向

### 佐久市子ども未来館

3層の展示エリアを「地球」に見立て、1階から3階までを「海の中」「地中」「陸地」「空」「宇宙」などをイメージして、それぞれに空間を演出。子どもたちは、探検気分での空間にいどみ、海にもぐり、山をくぐり、空をとびかけまわることができます。学校の教科書にそって、順をおって学んでいくのではなく、地球の仕組みや海の生物、陸の生物や空の世界、宇宙の不思議など、自分自身で気づき、感じていく「子どもたちが主体」を、本当に実現させた施設となっています。

所在地・人口	長野県佐久市岩村田1931-1				人口：約9.9万人（H28.10）	
初期整備・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数（年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	佐久市	2001年3月	97,293人（H26）	2,097㎡	3,486㎡	1,066㎡

### 福島市子どもの夢を育む施設こむこむ

子どもライブラリーやホール、プラネタリウム、常設展示室、工作室など、子どもたちの様々な活動をサポートしていく教育文化複合施設。この館の大きな特徴は、ドリームサポーターと呼ばれる施設ボランティアで、開館の3年前より、子どもを支える大人の役割や、子どもとの活動の試行などのワークショップを開催し、行政とのパートナーシップづくりとボランティア組織づくりを進めています。

所在地・人口	福島県福島市早稲町1番1号				人口：約29.2万人（H29.3）	
初期整備・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数（年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	福島市	2005年7月	93,575人	3,332㎡	9,886㎡	472㎡

### かわさき宙と緑の科学館

生田緑地の中に位置する天体観察に好条件の科学館。プラネタリウムでは、特別に開発された最新鋭の投影システム「MEGASTAR - III FUSION」の導入により、リアルで美しい星空の投影を楽しめます。常設展示の天文展示では太陽系から恒星、さまざまな星雲や星団、銀河系や銀河、宇宙の構造までが、パネルや写真で詳しく解説されており、自然展示では、川崎や多摩川の生態や自然が化石や、標本とともにテーマ別に分かりやすく紹介されています。

所在地・人口	川崎市多摩区柘形7-1-2				人口：約149.1万人（H29.3）	
初期整備 ・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数 （年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	川崎市	1971年（天文） 1981年（展示）	292,238人	1528.52 ㎡	2145.66 ㎡	379.89 ㎡

### はまぎんこども宇宙科学館

子どもから大人まで、自分でふれて体感して、楽しく遊びながら宇宙や科学のふしぎにふれることができる体験展示中心の科学館。5階のキャプテンシアターでは、身近なものを使って科学に親しむことができる「サイエンス・ショウ」を土日祝に開催。宇宙劇場では、直径23mのドーム全体に広がる迫力の映像と、リアルで美しい星が作りだす、臨場感あふれる宇宙が体験できます。

所在地・人口	横浜市磯子区洋光台5-2-1				人口：約372.8万人（H29.3）	
初期整備 ・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数 （年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	横浜市	1984年5月	318,387人 （H27）	2185.11㎡	6,484.26㎡	—

## 2 国内・神奈川県内の科学館及び類似施設の動向

### 伊勢原市立子ども科学館

プラネタリウムに工作・実験教室など、子どもの好奇心を刺激するイベントが多く開催されている伊勢原市立子ども科学館。プラネタリウムでは親子・一般向けや幼児・低学年向けの番組などを投影しているため、小さな子も楽しく夜空の不思議に親しむことができます。わんぱく工作教室では遊べる工作が体験でき、日曜日には科学の不思議がいっぱいのサイエンスショーも楽しむことができます。

所在地	神奈川県伊勢原市田中76				人口：約10.1万人（H29.3）	
初期整備 ・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数 （年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	伊勢原市 教育委員会	1989年	展示 55065人 プラネタリウム 26,684人 （H26）	—	2,676㎡ （図書館と併せて 約80,00㎡）	—

### 福岡市科学館

「科学」と「感性」の交流拠点として、福岡から未来を創造していく科学館を目指し、PFIでの整備運営で、2017年10月の開館を予定しています。ドームシアターは、日本最大級の25mの大きさ（220席）を誇り、エンターテインメント性の高い演出を予定。また、基本展示室は無限の宇宙から、私たちをとりまく環境、身近な生活を支える科学技術、生命のふしぎとしくみなど、4つの分野をワンフロアで体験できます。

所在地・人口	福岡市中央区六本松4丁目（九州大学跡地）				人口：約155.7万人（H29.3）	
初期整備 ・規模等	設立主体	開館年月	年間入場者数 （年度）	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	展示面積（㎡）
	福岡市	2017年10月 予定	-	-	約10,150㎡	-



	用語	解説	先頭ページ
1	産学官	産業界（民間企業）、学校（教育・研究機関）、官公庁（国・地方公共団体）の三者	2
2	さがみロボット産業特区	「生活支援ロボットの実用化を通じた地域の安全・安心の実現」を目的に、神奈川県が国から指定を受けた地域活性化総合特区	2
3	重点戦略	重点的・優先的に取り組む施策のこと。	3
4	グローバル化	国境を越えた資本や労働力の移動が活発化し、貿易を通じた商品・サービスの取引や投資が増大すること。	8
5	ハンズオン	体験学習、参加体験	14
6	地域力	地域自らが課題を解決していく力	19
7	コミュニティ プレイス	同じ共通点を持った人間が集まる場所	22
8	エクスペリエンス	経験、体験	32
9	ラボ	研究所・研究機関・実験室	36
10	ブックシェルフ	本棚	38

1～4、6については、「あつぎ元気プラン 第2期基本計画」の用語解説から引用  
先頭ページについては、用語が最初に掲載されているページを記載

( 仮称 ) こども未来館 基本構想

平成29年11月発行

厚木市

〒243-0018 神奈川県厚木市中町3丁目17-17

電話 (046) - 223 - 1511 (代表)

ホームページ <http://www.city.atsugi.kanagawa.jp/>

